

II-2. シンポジウムの内容（全体テーマ・発表者・演題）

第1回 テーマ『伊那谷の里山』（平成9・1997）

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 「里山はどのようなところか」 | 四方 圭一郎（伊那谷自然友の会） |
| 「里山の利用と論争」 | 石川 正臣（伊那史学会） |
| 「縄文・弥生時代の里山」 | 市沢 英利（下伊那考古学会） |
| 「トンキラ農園物語」 | 高橋 寛治（柳田國男記念伊那民俗学研究所） |
| 「里山は病んでいる」 | 木下 進（伊那谷自然友の会） |

第2回 テーマ『伊那谷の水辺』（平成10・1998）

- 「ギフチョウ・ヒメギフチョウの生息条件から探る伊那谷の水環境変化」野牧
野牧 君夫（天龍村ギフチョウ研究会）
- | | |
|----------------|-----------------------|
| 「湿地は希少植物の宝庫」 | 北沢あさ子（はなのき友の会） |
| 「堤に残る生き物と人の営み」 | 中川 勲（伊那谷自然友の会） |
| 「古代人は水辺で」 | 下平 博行（下伊那考古学会） |
| 「水神信仰と人びとの暮らし」 | 寺田 一雄（柳田國男記念伊那民俗学研究所） |
- 「天龍川の水位50年間の変遷考察」今村 真直（飯田文化財の会）

第3回 テーマ『伊那谷の魅力を訪ねて1』（平成11・1999）

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 「伊那谷の峠道」 | 久保田賀津男（伊那史学会） |
| 「伊那谷の金属を訪ねる」 | 原 董・今村 理則（金属の会） |
| 「ミュージアム自然美術館-環境美術の試み-」 | 羽場 睦美（野外教育センター） |
| 「竜丘の古墳とその公園化について」 | 下平隆 司・今村文一（竜丘古墳を考える会） |
| 「円空仏の魅力-飯田市の円空仏-」 | 毛利 郁美（飯伊婦人文庫） |
| 「ギフチョウから教えられた環境化」 | 井原 道夫（伊那谷自然友の会） |

第4回 テーマ『伊那谷の魅力を訪ねて2』（平成12・2000）

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 「絵馬奉納額を訪ねて」 | 中井 博（飯田文化財の会） |
| 「飯伊地方の古墳と馬」 | 小林 正春（下伊那考古学会） |
| 「飯伊の鉱山と鉱物」 | 今村 理則（金属の会） |
| 「南アルプスの山々を訪ねて(形と成り立ち)」 | 村松武（伊那谷自然友の会） |
| 「獲得遺伝形質の保護と植栽樹木-ハナノキを例として-」 | 二宮 考嗣（はなのき友の会） |
- 「東国古道記から見える伊那谷」高橋 寛治（柳田國男記念伊那民俗学研究所）

第5回 テーマ『伊那谷の魅力を尋ねて3』（平成13・2001）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 「棚田再考」 | 〆城 節雄（伊那谷自然友の会） |
| 「下伊那における近代思想の展開」 | 清水 三郎（伊那近代思想史研究会） |
| 「阿智村の東山道の遺跡と課題」 | 今村 善與（飯伊文化財保護協会） |

第6回 テーマ『伊那谷の魅力を訪ねて4』（平成14・2002）

- 基調提案「文化財を守る-後世に伝えたいもの・遺すべきもの-」
今村 真直（飯田文化財の会）
- 問題提起「天然記念物指定についての問題点」木下進（伊那谷自然友の会）
- 「埋蔵文化財とその活用」竹内 稔（下伊那考古学会）

第7回 テーマ『天龍川1-その本来のあり方を考える-』（平成15・2003）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 「名所由来と来峡者作品記録をめぐって」 | 今村 真直（飯田文化財の会） |
| 「天龍川と樽木の搬出について」 | 三浦 宏（飯田文化財の会） |
| 「天龍峡以南の通船と渡船」 | 伊坪 達郎（伊那史学会） |
| 「森本州平日記にみる天竜川水力発電問題」 | 松上清志（伊那近代思想史研究会） |
| 「河川敷に生息する哺乳類」 | 宮下 稔（伊那谷自然友の会） |
| 「天龍川を考える」 | 長沼 和宏（旧天竜川上流事務所勤務） |

第8回 テーマ『天龍川2-これからのあり方を考える-』（平成16・2004）

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 「天龍川水系の回顧と課題」 | 手塚 友逸（伊那谷自然友の会） |
| 「天龍川に関わる川路の地名」 | 田畑 作衛（伊那谷地名研究会） |
| 「クロコマノチョウの分布拡大」 | 井原 道夫（伊那谷自然友の会） |
| 「伊那谷の天龍水系の廃棄物処分場について」 | 中津頼照（はなのき友の会） |
| 「天龍川最下流と遠州海岸」 | テーマ旅行参加者一同 |

第9回 テーマ『伊那谷の災害』（平成17・2005）

- | | |
|------------|-----------------|
| 「遠山地震と埋没林」 | 寺岡 義治（伊那谷自然友の会） |
|------------|-----------------|

「天龍川・川路地区の水防史から」 今村 眞直 (飯田文化財の会)
「資料にみる近世伊那谷の地震災害」 吉沢 明佑 (伊那史学会)
「天災と霜月祭り」 桜井弘人(柳田國男記念伊那民俗学研究所)

第10回 テーマ『伊那谷学の創造と地育力』(平成18・2006)

基調講演「南信州地域の経済的自立向上を目指して」

牧野光朗(南信州広域連合長・飯田市長)
講演「伊那谷学と地育力向上」小林正春 (飯田市教育委員会生涯学習課長)
講演「伊那谷学と自然」 堤 久 (伊那谷自然友の会)

第11回 テーマ『伊那谷らしさをさぐる-伊那谷学へのアプローチⅠ』(2007)

「弥生時代後期の伊那谷南部と東濃地方」市澤英利 (下伊那考古学会)
「南アルプスのシカ食害の現状と課題」小林 正明 (伊那谷自然友の会)
「地名が語る伊那谷の歴史-地名は生きている-」原 董 (伊那谷地名研究会)
「『ギフチ ヨウ産卵調査』から何が見えるか?」松下重雄 (飯田昆虫友の会)

第12回 テーマ『伊那谷らしさをさぐる-伊那谷学へのアプローチⅡ』(2008)

問題提起「伊那谷まるごと博物館と伊那谷学の概念」

羽場 睦美 (野外教育研究財団)
「下伊那教育会参考館の考古資料の再検討-阿島式土器とその意義-」
守屋 武浩 (下伊那教育会郷土調査部)
「最近目立つ哺乳類」 宮下 稔 (伊那谷自然友の会)
「飯田市近辺の霧の発生について」 近松 志津夫 (下伊那教育会郷土調査部)
「飯田下伊那地方の住まい」 松上 清志 (柳田國男記念伊那民俗学研究所)

第※回 テーマ『地名からみる伊那谷の自然と歴史』(平成21・2009)

※伊那谷地名研究会主催の第8回シンポジウムを伊研協「伊那谷自然と文化総合研究月間」のメインシンポとして共催する

基調報告「南信州の地名研究の成果と課題」原 董 (伊那谷地名研究会)
「伊那谷の環境レポート<私のワゴン> 鹿の生息密度は地質・地名とも関係しているかも知れない!?-三峰川地滑りジオツアー等に参加して-」

木下 進 (伊那谷自然友の会)
「神坂峠周辺の金属関連地名」 羽場 睦美 (金属・鉱物の会)
「石造五輪塔に関する地名」 岡田 正彦 (伊那史学会)

第13回 テーマ『伊那谷まるごと博物館・伊那谷学をめざして』(平成22・2010)

「伊那谷の野鳥」 原田 望 (伊那谷自然友の会)
「飯田動物園発 ご当地ヒーロー“ZOOレンジャー”について」
前 裕治 (伊那谷環境文化研究会)
「竜丘の小字から<大道>の痕跡を探る」 今村 理則 (伊那谷地名研究会)
「生物多様性と伊那谷まるごと博物館について」

後藤澄寿 (伊那谷まるごと博物館の会)

第14回 テーマ『伊那谷の風土の多様性について』(平成23・2011)

—多様な風土をいかに生かしてきたか

これからどう生かしていくか—

「伊那谷にも火山があった」 坂本 正夫 (伊那谷自然友の会)
「田んぼの生物たち」 四方 圭一郎 (伊那谷自然友の会)
「下伊那の美術館事始め」 鎌倉 貞男 (伊那史学会)
「弥生人の営みと伊那谷の風土」 市澤 英利 (下伊那考古学会)

第15回 テーマ『伊那谷の風土の多様性の中から』(平成24・2012)

—自然とひととの関わりを考える—

「ブッポウソウの分布から見えてくるもの」 田畑 孝宏 (伊那谷自然友の会)
「神と仏がつどう谷」 今井 啓 (柳田國男記念伊那民俗学研究所)
「地名を文化として伝える重要性」 原 董 (伊那谷地名研究会)

第16回 テーマ『伊那谷の風土の多様性』(平成25・2013)

—自然や人の営みを考える—

「馬が紡いだ伊那谷の古墳文化」 小林 正春 (下伊那考古学会)
「伊那谷南部の鉱山・試掘跡」 今村 理則 (金属・鉱物の会)
「飯田下伊那の文化碑について」 吉澤 健 (文学碑研究会)

第17回 テーマ『伊那谷の風土の多様性』 (平成26・2014)

—天竜川流域の災害と消えていく鳥や樹木—

- 「最近の天竜川上流における治水砂防の取組の紹介」 中谷 洋明 (国土交通省中部地方整備局・天竜川上流河川事務所 所長)
「遠山地震の関連する地名について」 針間 道夫 (伊那谷地名研究会)
「伊那谷から消えた鳥たち」 原田 望 (伊那史学会)
「伊那谷から消えた樹木」 牧内 誠 (伊那谷自然友の会)

第18回 テーマ『戦後、伊那谷はどう変わったか』 (平成27・2015)

—風土と生活を考える—

- 「毎年増え続ける飯田下伊那の帰化植物」 木下 進 (伊那谷自然友の会)
「伊那谷の土地利用の変遷」 伊藤 渉 (伊那谷自然友の会)
「下伊那における人の死・埋葬などの変化」 牧内 誠 (伊那谷民族学研究所友の会)

第19回 テーマ『伊那谷・次世代に伝えたいもの残したいもの』 (平成28・2016)

—自然・文化・風土—

- 「雑魚とり・虫とり・秘密基地 体験の場を」 中村 貴俊 (伊那谷自然友の会)
「土地に刻まれた先人の生き様を読み取る」 小林 正春 (下伊那考古学会)
「自らの足で自の地に立つ—地名への眼差し—」 原 董 (伊那地名研究会)

第20回 テーマ『南アルプス ジオパークから考える』 (平成29・2017)

- 「南アルプスジオパークとは何か」 坂本 正夫 (伊那谷自然友の会)
「南アルプスの植生復元について」 八幡 秀彦 (伊那谷自然友の会)
「中央構造線沿いの道—東国古道—」 針間 道夫 (伊那谷民俗学研究所)

第21回 テーマ『伊那谷・次世代に伝えたいもの残したいもの その2』 (平成30・2018)

—自然・文化・風土—

- 「松川町の天龍川河原に生息するツツザキヤマジノギクについて」 堤 久 (伊那谷自然友の会)
「古墳維持保全活動における問題点 —飯沼(雲彩寺)古墳を例に—」 古川 學 (南信州文化財の会)
「民俗芸能の宝庫である南信州で考える伝統文化の継承問題 —その継承の歴史をふり返るなかで—」 松上 清志 (伊那谷民俗学研究所)

第22回 テーマ『伊那谷・次世代に伝えたいもの残したいもの その3』 (令和元年・2019)

—つなぐ・使う・創る—

- 「動物園の生物保全活動について —ニホンライチョウの保全活動を例に—」 大崎康平 (飯田市動物園)
伊藤 崇 (飯田市動物園)
「南信州資料センター10年の歩み —収集、保存、分類、活用—」 吉澤 健 (南信州地域資料センター)
『「文化財の保全を考える会」から見える継承の問題』 伊坪達郎 (南信州文化財の会)

第23回 テーマ『コロナ禍下の伊那谷研究の現状と課題』 (令和3年・2020)

—私たちは今どこまできたのか そしてどこをめざしているのか—
加盟団体からの研究活動報告&情報発信